

陸軍少飛平和祈念の会、会報 No27 号

2021(令和3)年10月

◎本会のHPは、<http://sho-hi.sakura.ne.jp/> です。どうぞご覧ください。
◎月例会は、開催を自粛させていただいております。
◎経費節減のため、会報をメール配信に切り替えています。パソコンのメールアドレスを、heiwakinen@sho-hi.jp までお知らせください。

(1) NHK「ファミリーヒストリー」の放送

8月10日(火)NHK「ファミリーヒストリー」、所ジョージさんの回が放送されました。所さんのお父様が14期乙の元少年飛行兵で昭和18(1943)年4月に開校した岐阜陸軍航空整備学校を卒業していました。

本会の11期の鈴木善雄さんの話が番組の中で採り上げられていました。NHKは17期の佐藤昭さん、瀬尾敏夫さんにも取材していて、とても参考になったそうです。ご協力を頂いた方々に感謝の意をお伝え下さいとのことです。ご協力ありがとうございました。

(2) 10月22日(金)17期金徳泰さんのお話を聞く会を開催しました。

8月に予定していた金徳泰さんの話を聞く会ですが、コロナ禍で延期が続き10月22日ようやく開くことが出来ました。FJKフォーラム自治研究との共催でしたが、会の開催は大竹財団の助成金の要件でもありました。



会場の千代田区和泉橋区民館には約20人が集まり、金さんの故郷の馬山市の様子、日本の統治下だった社会や生活の状況、日本人と朝鮮人との交流、少年飛行兵志願の経緯、日本人生徒との比較、6か月短縮して卒業させられた熊谷飛行学校や兵士となって配属された立川航空廠の様子、選抜されて特攻兵となった経緯、終戦後に創設された韓国空軍に参加し朝鮮戦争に参与した事など貴重な話が続きました。

参加者からも次々と質問が出て、予定された2時間はあっという間に過ぎてしまいました。急遽の開催になったため会員の皆様に連絡が行き届かなかったことをお詫び致します。

(3) 9月24日(金)、15期乙樋浦昭二さんのビデオ収録を行いました。

樋浦さんは、本会の菊池副会長(15期乙)の著作「少年飛行兵」にも登場する同期生です。新潟県の丸山会員から送られてきた「新潟日報」に載った樋浦さんの記事を見て、菊池副会長は「樋浦だ。生きていたんだ」とおっしゃっていました。早速取材を申し込みましたが、コロナ禍で延期に次ぐ延期。新潟県の丸山会員と加藤会員にも立ち会って頂き、約3時間ようやくビデオ収録が出来ました。



樋浦さんの経歴は菊池副会長と似ています。東京陸軍少年飛行兵学校に入校し直ちに大刀洗の甘木生徒隊へ。黒石原教育飛行隊を経て南方要員となり、ジャワの第16教育飛行隊に配属され、爆撃、特攻、空輸の戦地訓練を続けました。入院して手術を受け、治療回復中に終戦、英軍の捕虜となって2年間重労働をした後、昭和22年5月に復員しました。

(4) 10月7日(木)、12期青木一郎さんのビデオ収録を行いました。

8月15日の読売新聞に紹介されていた12期の青木一郎さんはビデオ未収録の方でしたので早速お願いし快く了承して頂きました。少飛研究者の檜崎由美先生と文京区の泉本会員、息子さんの青木満男さん等が立会い2時間強実施しました。



青木さんは、東航入学時の昭和16年4月10日は15歳10か月でした。その年の12月には太平洋戦争が始まり、熊谷飛行学校を1年半で卒業、北支派遣の114教育飛行隊に配属され、さらに天津飛行場の錬成飛行隊に異動して九七式と隼一型で戦地訓練。昭和19年4月明野飛行学校に着任して隼二型を訓練。5月に第73戦隊に配属となり11月まで東京防空の任務に就きます。

12月4日フィリピンに向け出発し、現地で20日頃まで激戦を続け、青木さんも不時着して負傷しました。米軍がルソン島に上陸する直前の最後の激しい戦闘でした。21日には部隊長以下ほぼ全滅し、生き残った整備兵と操縦兵はルソン島を北に敗走し始めます。司令官や参謀達は若い兵を残して我先に逃げ帰り、負傷した青木さんは野戦病院に取り残され、戦争の虚しさを嫌という程感じました。ゲリラや空襲に悩みながら500~600Kmに及ぶ青木さんの逃走が始まりました。

絶対に生きて帰って見返してやると、びっこを引きながら必死に歩い

た。足の傷口にウジがわき、岩塩を溶かして塗り治療した。水辺には日本兵の屍が重なり合っていた。300Km 先の目的地エチアゲに着いた時には、既に司令官や部隊はさらに 100Km 先のツゲガラオに逃げた後でした。3月末にやっとツゲガラオ基地に着き部隊と合流できた。操縦者だったので優先的に救援機に乗れる筈だったが、司令官や参謀は既に逃亡し、フィリピン大統領や日本大使等が優先されて青木さんは乗機出来なかった。4~5日台湾からの救援機を待ったが来ず、100Km 先のアパリに潜水艦が迎えに来ると連絡があり向かった。しかし米軍の落下傘部隊が降下したと情報があり、逆方向の 150Km 先のポントック山中に進路を変えた。

山道は更に悲惨な状況だった。雨季に入って冷たい雨が降り続き、道端にうずくまる兵士達はマラリア、赤痢、栄養失調でそのまま息絶えていた。息がある兵士も、鼻も頬も顎も骨が突きだし、口、眼、鼻に蠅が群がり、追い払う気力も体力も無くなっていた。銃や手榴弾で自殺する兵隊もいて、さながら地獄の様相だった。

10月半ばに米軍の観測機がビラを散布しマイクで空から日本の降伏を知らせた。武器を放棄して下山し捕虜となった。裸にされ DDT を頭からかけられ、バタンガス捕虜収容所にトラックで移動させられた。反日感情むき出しの現地人が「アボン、バカヤ、パタイ」（日本人のバカヤ皆殺す）と怒鳴っていた。飛んで来る小石を避けるため床に這いつくばった。

約1年間の捕虜生活の後、昭和21年10月名古屋港に復員できた。

(5) 国立市中の会「少年飛行兵を偲んで」



8月6日国立市中の会が主催する「少年飛行兵を偲んで」に鳥海副会長が参加し、少年飛行兵の制度や経緯、何故若い特攻兵が出現したのか等、少年飛行兵に関する

説明と質疑が行われました。25名前後、小学生から高齢者まで幅広い住民の方が参加し、熱心に聴講して頂いた後に、いろいろな質疑が途切れずに30~40分続きました。

(6) 新入会員です。今号から会報を送らせて頂きます。

○佐藤爵優（たかひろ）さん、愛知県一宮市・元少飛の方の情報提供などいろいろご協力を頂いています。

○須永千秋さん 山梨県甲府市・金徳泰さんのお話の会もネットで調べて甲府から出席して頂きました。

○寺島誠也さん 北海道網走市・お住いの近くに元少飛の生存者がいると連絡して頂きました。

○坂本雄作さん 熊本県菊池市・平和教育のボランティア活動を続けていらっしゃるそうです。

(7) 元少飛の消息情報

「元少年飛行兵ビデオ証言第二集」を刊行後、元少飛の消息を教えるべく頂くことが多くなりました。可能な限りビデオ収録を続けていきたいと思っております。当面はお寄せいただいた情報の中で、四十八願好造（よいならよしぞう）さん（96歳）です。

栃木県佐野市にお住まいです。電話でのご様子をご健勝のようで、元少飛の経験を地元で語り継ぐ活動をされているとのこと。昭和16年10月に16歳で茨城県水戸市の陸軍航空通信学校に入校、終戦時は静岡県浜松市の陸軍航空聯隊本部に配属されていました。なるべく早い時期のビデオ収録を目指しています。

(8) ご支援ありがとうございます。

「元少年飛行兵ビデオ証言第二集」の刊行以来、寄付、会費、本代や郵送料として、多くの現金、為替、切手が寄せられています。全員の方向に個別に御礼を申し上げるべきですが、会報にお名前を載せて「感謝の意」を申し上げ、皆様のご支援を「確かに受領した」ことをご報告させていただきます。

前号会報以降にご支援頂いた方々です（確かにお預かりしました）。

東京都日野市の横溝清隆さん、東京都国立市の刈田貞子さん、東京都八王子市の佐藤長範さん、国立市中の会、東京都豊島区のIYさんから多額なご寄付を賜りました。また東京都国分寺市の松崎昭治さん、山梨県甲府市の須永千秋さん、佐賀県唐津市の盛田美紀子さん、埼玉県桶川市の天沼一さん、北海道網走市の寺島誠也さんから多くのご寄付や切手等を頂いています。ありがとうございます。心から感謝申し上げます。

今年度、現在までに送って頂いた現金の総額は199,800円、切手が53,600円、為替が54,030円にもなっています。皆様のご支援に感謝致します。しっかりと「証言集」を作成して参ります。